2022年度　点検･評価報告書

Ⅰ　点検･評価の概要

１．点検･評価の目的

(1)　点検･評価は、以下の目的で行う。

① 教育の質保証のための各学科等での取組状況･成果の可視化と、教育の継続的な改善の支援

② 教育改革委員会で定めた方針の各学科等での具体化･定着に係る状況の確認

２．点検･評価の実施方法

(1)　点検の実施方法

① 学長室は各学科に対して点検の実施を依頼する。

② 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討･取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書を提出する。

③ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督･支援する。

④ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。

⑤ 学長室は各学科の報告書の内容を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部･学科の検討状況、課題認識等について確認する。

⑥ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。

⑦ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の点検結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。

(2)　評価の実施方法

① 学長室は、評価の対象学科に対して、評価を実施する前年度中に、次年度の対象学科である旨の決定通知を行う。

② 学長室は評価の対象学科に対して、評価の実施を依頼する。

③ 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討･取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書とエビデンス資料を提出する。

④ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督･支援する。

⑥ 学長室は各学科の報告書の内容とエビデンス資料を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部･学科の自己評価の妥当性や検討状況、課題認識等について確認する。

⑦ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。

⑧ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の評価結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する 。

３．点検･評価の結果の活用

(1)　学部長･学科長は、点検･評価の結果を教育改善に係る計画･検討に活用する。

(2)　当該学科の学科長は、点検･評価にて顕在化した課題をカリキュラム改善計画に反映する。

Ⅱ　点検･評価における実施項目

点検･評価は以下の4セクションから成る8つの項目で実施する。

１．修得目標の策定･見直し

①　構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

２．カリキュラムの体系性･有効性の確保

①　修得目標に対する体系性の確認　　②　修得目標に対する有効性の確認

３．学修成果及び教育成果の評価

①　学生の修得目標の達成度合いの把握

②　就職率･国家試験合格率の向上に向けた取り組み

③　授業評価アンケートの分析･活用

４．シラバスの作成･改善

①　組織的なシラバスチェックの実施　　②　担当教員間の調整

2022年度　点検・評価報告書における総評

（点検実施学科：28学科）
医学部医学科　　薬学部薬学科
医療技術学部（視能矯正学科　看護学科　診療放射線学科　臨床検査学科　スポーツ医療学科　柔道整復学科）
経済学部（経済学科　国際経済学科　地域経済学科　経営学科　観光経営学科）
法学部（法律学科　政治学科）
外国語学部（外国語学科　国際日本学科）　　教育学部（教育文化学科　初等教育学科）
理工学部（機械・精密システム工学科　航空宇宙工学科　情報電子工学科　情報科学科通信教育課程）
福岡医療技術学部（理学療法学科　作業療法学科　看護学科　診療放射線学科　医療技術学科）

（評価実施学科：5学科）
文学部（日本文化学科　史学科　社会学科　心理学科）　　理工学部（バイオサイエンス学科）

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

全学科の８割以上の学科において、すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っており、さらに、全学科の５割を超える学科にて、すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。また、昨年度策定した全学の修得目標について、14個から８個に減じることとしたため、多くの学科のいて、学科の修得目標も減じる対応となった。

理工学部バイオサイエンス学科では、修得目標の難易度におけるレベルについて、学生のアンケートをもとにして確認を行っている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

全学科の９割を超える学科において、カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科としての課題を把握している。

国家試験に基づく医療系学科では、指定規則に則してほぼすべての科目を必修科目として配置しており、科目配置の網羅性は担保されている。また、医療系学科は指定規則に基づく教育課程の編成であるが、本学の取り組みとして、修得目標を設定し、カリキュラムマップを作成することは、学生に対して、学びの順序や教育課程の体系を的確に伝え、学生の主体的な学修行動に繋げることも意図していることを再確認することができた。

② 修得目標に対する有効性の確認

全学科の８割以上の学科において、 カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。また、２割弱の学科にて、カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している状態となっている。

文学部心理学科では、3年進級時に、4つの学修領域（基礎心理、社会心理、実践発達、臨床実践）より１つの学修領域を、学生が選択することとしているが、学生が選択した学修領域と、１年次、２年次での科目履修の相関関係を調査・分析した。その結果、実践発達領域の学生について、科目選択に幅があり、発達領域の学修を踏まえて領域選択を行っていない傾向にあることが判明した。今後、成績データも加味して分析を行い、学生指導に役立てていく。
理工学部バイオサイエンス学科では、学生より早期の段階から実験科目を履修したいとの要望があり、また、卒業後アンケートにおいても、基礎的な実験の技術習得に不足があるとの結果を受け、2023年度より実験科目を増設する。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

全学科の８割弱の学科において、修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析しており、さらに全学科の３割強の学科にて、必要な情報を収集・分析した結果の活用方法を学科として検討している。また、約２割の学科が、修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・確認をしている状態となっている。

医療技術学部看護学科では、学修ポートフォリオにおける学生による修得目標の自己評価について、ルーブリック評価の導入を検討している。
福岡医療技術学部診療放射線学科では、「卒業研究」を4年前期の必修科目としていることで、教育の質の高さを維持し、学生にとっても専門分野への興味を高め自ら学修する姿勢を醸成する効果を生んでいる。
文学部日本文化学科では、2021年度後期より、授業内容改善委員会を配置し、授業で使用しているテキストの紹介や、オンライン授業における授業工夫の共有といった取り組みを実施している。
外国語学部国際日本学科では、言語能力と異文化理解力の向上を測定するため、学科独自による「Can-Doアンケート」を実施しており、日本人学生、留学生ともに、それぞれの能力の向上が見られている。
理工学部では、基礎学力に不安のある学生に対して、元高校教員が配置されている学習支援室にて指導している。また、毎年、学生FDを実施することで、学生からの意見を直接収集している。学生の意見に対するフィードバックも、確実に実施している。
理工学部情報電子工学科では、1年生の学力強化の対応として、1学年の担任教員を2名から3名へと増員し、学習に躓く学生の早期発見、早期対応を心掛けている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

全学科の８割を超える学科において、就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っており、さらに全学科の４割強の学科にて、学科として維持・向上のための検討・取組を行った結果、前年度より向上が見られている。

国家試験を見据える医療系学部では、模擬試験の対応から学生指導まで、非常にきめ細かく対応しており、それが高い就職率にも反映されている。
福岡医療技術学部では、国家試験対応として専任教員による授業外学習の時間を設けている。また、学生同士によるペアワークも積極的に実施しており、成績上位者と成績下位者によるペアを設け、学生の主体的学修を実践している。
経済学部では、経営学科所属の実務家教員が経済学部全体の就職活動の指導の中心となって対応している。実務家教員による企業開拓委員会を設けて、企業訪問を実施している。
文学部社会学科では、３年次の演習科目で、担当教員が学生のエントリーシートを確認することとしている。エントリーシートの確認の仕方については、FD活動として教員間で情報を共有している。また、グループウェアであるSlackを活用して、就職活動の支援情報を教員間で共有している。
理工学部では、専任教員に学生を割り当て、担任制として就職指導を行っている。さらに、機械・精密システム工学科では、就職委員の教員が、企業の求人情報をLMSに掲載して学生への周知を行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

すべての学科にて、授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している。さらに、全学科の５割強の学科にて、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討も行っている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

全学科の８割弱の学科にて、修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている。また、全学科の２割強の学科にて、修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている状態となっている。

多くの学科において教務委員が中心となり、シラバス内容のチェックを行っている。また、担当教員間でのチェックをしている学科も見受けられた。

② 担当教員間の調整

すべての学科において、シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っており、全学科の約７割の学科にて、.シラバス作成にあたっては、組織的にまたは一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている状態となっている。

医学部 医学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

【特筆すべき取り組み】
各科目の修得目標達成度について、各科目責任者による自己評価・同学年他科目責任者による他者評価、および学生による自己評価のデータを毎年取得し、それに基づいて次年度シラバス作成時に修得目標を見直し、必要な場合には修正する仕組みが出来上がっている。
卒業時の修得目標（アウトカム）については、定期的に医学部の最高意思決定機関である教育関係運営会議、および附属病院関係者や近隣の医療施設長、患者、学生が参加する内部質保証評価会議によって見直しが行われており、これによって社会的要請や学生のニーズの組み入れが担保されている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムについては各科目と修得目標とを照合し、かつ垂直的・水平的統合を意識しながら、卒業時にすべての修得目標が確実に達成できるよう配置している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
1年生の解剖学系科目（解剖学、組織学、骨学、発生学）については相互に関連する科目であるにもかかわらず授業の時期が有効に配置されていなかった。2022年度からこれらを有機的に再配置し有効に活用できるようにカリキュラムを改変した。
4年生以降の臨床実習においては、教員による学生の評価、あるいは学生自身による自己評価がリアルタイムに共有されフィードバックを行うことが可能となるよう、2022年4月からCC-EPOCを導入した。これにより臨床実習の教育効果がさらに向上することが期待される。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】
毎年各学年在校生・卒業生、および卒後2年の臨床研修医かつその指導医に対して修得目標の達成度を含めたアンケート調査を行っており、カリキュラムや修得目標の見直しに活用している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
本学新卒学生における医師国家試験の合格率は、114回（2020年）が86.2%（全国平均94.9%）、115回（2021年）が93.8%（同94.4%）、116回（2022年）が97.8%（同95.0%）と年々向上している。これは医学部全体におけるカリキュラム改変および学生支援の効果が上がってきた結果であると考えている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
現在授業評価アンケート結果を教務委員会とIR室でまずは把握し、その上で科目責任者へ伝達するよう変更することを検討している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている
【特筆すべき取り組み】 2021年度から各科目における修得目標の達成度について、科目責任者による自己評価、同学年の他科目責任者によるピア評価、および学生の評価、以上の結果を収集し、次年度シラバス作成に利用する仕組みを設けている。
② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている
【特筆すべき取り組み】 卒業生調査および卒後2年の研修医を対象とした卒業後フォローアップ調査において英語関連の修得目標達成度が低かったため、英語関連科目（1～4年）については科目責任者間で統一した英語修得目標を設定し、科目の垂直的統合を図っている。さらにそれ以外の科目や臨床実習（5～6年）においても英語を取り入れた学修を行うよう教務委員会が働きかけを行っている。

薬学部 薬学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
薬学部履修要項に文部科学省が提示している「薬剤師として求められる基本的な10の資質」と修得目標１，２との対応表を掲載し、年度初めの各学年のガイダンスにおいて、薬学部ディプロマポリシーと共に修得目標について学生にくり返し周知し、新しい年度の学習を開始する体制としている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【特筆すべき取り組み】
（現状）授業評価アンケートは、実際には毎年度、各科目ごとに実施されており、アンケート結果は科目担当教員のみに通知されるシステムとなっている。結果通知後に各教員が個別に自身の教育について振り返り、改善点等を記載してフィードバック送信することは義務付けられており、そのフィードバック内容は学生向けに教務課で閲覧できるシステムとなっている。今回の資料のように各学年ごとの授業評価アンケートが通知されたこともなく、各授業評価アンケート結果を何らかの形で情報共有することが可能になると、薬学科単位での分析や改善策を協議することも可能になると考える。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】
薬学教育PDCA推進室会議委員が分担して、教員が作成したシラバスの点検を実施している。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 視能矯正学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
国試対策・就職活動ともチューター制による手厚い指導を行っている。これにより入学者の学力低下を補って国試合格率を保っている。また、就職課の情報だけでなく、各教員のもつ求人情報を学生の就職活動に活かしている。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

【特筆すべき取り組み】
科目に紐づく修得目標をシラバスに落とし込むよう教務委員とFD委員が連携して確認を行った。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 看護学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている	
【特筆すべき取り組み】 2023年度以降に向け、新たな修得目標を策定した。	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている	
【特筆すべき取り組み】 2022年度よりカリキュラム改変を行い、看護基礎教育において習得すべき教育内容と方法を見直し、当学科独自の科目を配置した。	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している	
【特筆すべき取り組み】 キャリアについて考察する目的として、4年次科目「アドバンスセミナー」において少人数制のゼミ形式での学修サポートを行っている。また当該科目では、就職活動・国家試験	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	

医療技術学部 診療放射線学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
達成度に達していない学生と教員の面談を行い、状況を把握している。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
7回の卒業試験を設けて、学科教員が問題作成をおこない、基準点を設けて実施している。また、基準点に関しては学生に公表している。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 臨床検査学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている	

医療技術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	

経済学部 経済学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
政府の方針および企業のニーズに合わせ、データ分析に関連する教育の拡充を進めている。また企業が本学卒業生に最も求める能力の一つであるコミュニケーション能力を養うため、演習でのグループワークやプレゼンテーション等などの実施状況を調査しており、今後学科として強化していく方針である。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
他の科目と内容的に重複している3の科目について、22年度より廃止。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている

【特筆すべき取り組み】
自己点検・自己評価において、卒業時アンケートの結果を学科の修得目標の達成度を測る評価指標として採用し、改善活動に活かしている。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科生に対して、大学主催のキャリアガイダンス、国際経済学科主催のTOEIC受験プログラムへの参加を促すなど、大学全体のキャリア支援プログラムを推奨している。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【特筆すべき取り組み】
科目の修得目標とシラバスの内容の基本的な対応については確認済みである。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学のような、経済学科の中核的な科目については、重要なトピックや概念については必須とするよう、授業内容を一部共通化している。

経済学部 国際経済学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
上記課題の①に関しては、2021年入学生から1年次、2年次におけるTOEIC-IPテストの年2回の受験を義務化した。②に関しては、中断していた短期語学研修、長期語学研修を2022年度から再開し、後者は現在、5名の学生が海外に派遣されているほか、引き続き短期互角研修を含め、研修を実現する予定である。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
当初18あった修得目標を11に削減し、削減する項目と残す項目の整合性を検討しつつ、修得目標の改変を行っている。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
他の科目と内容的に重複している3つの科目を2022年度より廃止した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
2021年新入生から、1年次、2年次の春、秋の二度のTOEIC-IPテストの受験を必修化した。入学生には実験研修費の形で、受験料を前納させて都度の受験料支払いを省力化したほか、スコアの100分の一を英語科目の評点の10分の一反映させる仕組みを採用し、学生が無理なく、テストに向き合えるようにした。新入生ガイダンス、2年生ガイダンスでも定期的にテストを受け実力の確認を行うことの重要性を指導し、受験率の向上を図っている。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【特筆すべき取り組み】
科目の修得目標とシラバスの内容の基本的な対応については、各教員レベルで確認済みである。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
入門マクロ経済学、入門ミクロ経済学といった国際経済学科にとって基礎的な科目については、重要なトピックや概念については必須とするよう、授業内容を一部共通化して

経済学部 経営学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている	
【特筆すべき取り組み】 役割分担で割り当てられた教務委員がシラバスのチェック・確認を行う。	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている	

経済学部 観光経営学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
学科のFD活動の一環として、4年次の選択必須科目（総合観光経営 、観光経営学特殊講義）の受講生を対象に、修得目標の達成度を自己評価してもらい、継続的に達成度を確認する。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【特筆すべき取り組み】
学科内でのFD委員によるFD研修会を実施

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

法学部 法律学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
過年度において、基礎法学系科目の配当年次について継続的な検討を行った。積み上げ型の学修を促すために、基礎法学系科目の一部を1年次配当科目にしたが、現在では3年次生配当科目に戻している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
キャリアサポートセンターとの連携。ライフデザイン演習・基礎教養演習・演習など少人数科目を通して、学生の意識改革の促進。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】
法学部の全教員を対象とするFD開催（2021年12月16日）。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
必修科目を中心とした担当者間協議の実施。

法学部 政治学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している

【特筆すべき取り組み】
キャリアサポートセンターとの連携。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】
法学部の全教員を対象とする「FD」開催（2021年12月16日）。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

評価対象

文学部 日本文化学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に従い、ワーキンググループで現在の修得目標について審議した。その結果、現状では学科修得目標の変更の必要性はないと判断した。しかし、学科と全学の修得目標数に誤差がうまれることから、次年度以降については、修得目標が適切に機能しているかを継続的に確認することとした。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【評価理由】
ワーキンググループでカリキュラムマップの内容を点検し、一部修得目標に紐づく科目を配置し直すことになった。その結果、各科目が修得目標に対して網羅的に配置されることになったが、１～２年次に「D. 口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する」が比較的集中している。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
ワーキンググループでエビデンス資料「修得目標ごとのカリキュラムデータ」と「卒業後アンケートデータ」を基に検討した結果、評価項目2における一部変更を含めて、現在の修得目標に対する各科目の役割が明確かつ有効的に配置されていることを確認した。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【評価理由】
ワーキンググループでエビデンス資料「修得目標ごとのカリキュラムデータ」「授業評価アンケートデータ」「卒業時アンケートデータ」「企業等に対するアンケートデータ」を基に、修得目標の改善方法とその活用方法を審議した。その結果、評価項目1～3における一部修正や改善を施した。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
「授業評価アンケートデータ」に関し、学科FD活動の一環である授業内容改善委員会でその結果を分析し、学科内で情報共有をすると同時に、必要な対策について講じている。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【評価理由】
学科独自のエビデンス資料を用い、これまでの学科の就職率とその向上に向けた学科の取り組みについて検討した。その結果、2021年度の就職率がやや低いことが課題として浮上した。一方で教員免許取得者数が多いことや、学科独自の就職活動支援の取り組みを新たに計画し、準備していることを確認した。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
従来から学科独自の就職活動支援の取り組みとして、「就職内定者との交流会」を毎年開催している。さらに上記課題を踏まえ、今年度はキャリアサポートセンターのイベント案内を学科会議で教員に周知したり、内定者の4年生を対象とした学科独自のアンケート調査を実施するなど、就職活動支援強化の取り組みも行っている。なお教員免許取得者および教員採用者の数は教育学部以外の他学科と比較して極めて高いことは特筆に値する。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

【評価理由】
今年度、本学科独自のFD活動の一環として授業内容改善委員会を立ち上げた。この委員会において、2022年度前期の授業評価アンケートの結果を基に、時間外学修の向上のための取り組みを審議し、学科会議で共有した。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
本学科独自のFD活動の一環である授業内容改善委員会による調査により、時間外学修の向上のための取り組みについて学科内で共有するなどの取り組みを行っている。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【評価理由】
ワーキンググループで審議し、本学科では教務委員が中心に各教員の執筆したシラバスをチェックし、紐づく修得目標をシラバスに落とし込まれているかを確認するための機会を担保していることを確認した。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
シラバス作成直前の段階で、学科FD活動の一環として、シラバス作成における修得目標の落とし込みにの方法ついて再確認するための機会を設けている。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】
ワーキンググループで審議し、1年次必修科目を担当する教員にシラバスの内容を調整するように要請することとした。その結果、一部科目のシラバスで、内容の調整・統一を行うことができた。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
一部の同一科目のシラバスに関して、その担当教員間で審議し、「授業の到達目標」「成績評価の方法および基準」「準備学修の内容」についての統一を図り、実際のシラバス作成にあたってその結果を反映することができた。

評価対象

文学部 史学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている
【評価理由】 エビデンス資料（史学科点検・評価報告書【１】修得目標の策定・見直し）の通り、ガイドラインをもとに確認を行った。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている
【評価理由】 複数のチェック項目ごとに内容的・数値的検討を重ねたことにより、史学科のカリキュラムの体系性はカリキュラムマップ改訂後も保たれている。

② 修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている
【評価理由】 修得目標に対する有効性について検討した結果、史学科のカリキュラムの有効性はカリキュラムマップ改訂後も保たれていると結論できる。今後、より適切なカリキュラムを設定していく必要がある。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している
【評価理由】 ・修得目標A-1（「広汎な学問的関心と基礎知識を有する」）、A-2（「現代社会の課題・問題点を歴史的に把握できる」）のGPA平均値がやや低いので、該当する科目の教育に一層注力する。 ・学生の自己評価では、知識・技能の修得に比して、文章を書く力やプレゼンテーション力、獲得した知識・技能を土台として、発展的にものごとを考察し、解決する力の修得がやや劣っているので、該当する科目の教育に一層注力する。 ・現状の「授業評価アンケート」の総括のしかた（学科全体での総括）では、修得目標ごとの達成度合いを読み取れないという問題がある。授業評価アンケートの結果を科目種（概説科目、史籍講読・実習科目、演習科目など）ごとに総括することにより、修得目標ごとの達成度合いがある程度読み取れると思われる。
【特筆すべき取り組み】 史学科では、自己点検・自己評価活動の一環として、ディプロマポリシーごとの達成度合いを把握し、それを引き上げるための取り組みを行っている。具体的には、「学修行動調査」「卒業生卒業時調査」等における特定の設問に対する回答を評価指標として達成度合いを把握し、達成度合いを引き上げるために、概説科目を担当する教員間で共通した取り組みを授業内で行ったり、卒業論文の執筆を促したりしている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている
【評価理由】 卒業率に比して進路先決定率が低い状況が続いている。また、就職準備中の者の数が増加してきている。学科としての就職支援活動をさらに強化する必要がある。
【特筆すべき取り組み】 史学科では、就職・キャリア支援委員が中心となって、学科としての就職支援策を検討し、実施している。具体的には、3年生の演習においてインターンシップへの参加を推奨したり、進路に関する懇談（4年生から3年生へのアドバイスなど）の機会を設けたりしている。また、就職活動中の4年生に対するケア（状況の確認や相談など）や、成績不振学生・要配慮学生の情報の共有化を行っている。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【評価理由】
現状では、「授業評価アンケート」の結果は、教員個人単位での授業改善に活用されている段階である。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【評価理由】
史学科ではFD勉強会を実施し、各教員間で史学科のディプロマポリシーの再確認や修得目標と各授業の到達目標が適切に紐づけられているかの確認を継続的に行っていく。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】
史学科では史学科全体の基本方針に基づき、各授業のシラバスを作成しており、概説科目を担当する日本史コース、西洋史コース、東洋史コース、考古学コース、地理学コース、美術史・文化遺産コースのそれぞれのコースの教員間で、シラバスの内容の検討と協議を行っている。

評価対象

文学部 社会学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている
【評価理由】 修得目標について、ガイドラインにしたがって点検を行った。ガイドラインに示された10の項目のうち9つが〇、1つ（「数が多すぎず少なすぎない」）が△（やや多い）であった。このため「3」と評価した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている
【評価理由】 各々の修得目標に、少なくとも2つ以上の必修科目、選択必修科目が対応している。このため、学科の修得目標に取り組む機会はほぼ確保できていると考えられるため「3」と評価。

② 修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている
【評価理由】 「学科の修得目標に対して必要以上に科目が配置されていないか」の部分について点検を行った。配置科目が最も少ないのは学科の修得目標8で多いのは修得目標3（現代の社会問題に関心を持ち、自分の意見を表明できる）、学科の修得目標4（多様な価値観を持った社会の成員が存在することを理解し、包摂できる社会を構想できる）などである。講義科目が主に対応している修得目標について、対応している科目数と対応科目の平均GPAの関係を調べたところ、科目数の多い修得目標ほど平均GPAが高くなる傾向が見られた（「対応科目とGPAとの関係」グラフ参照）。これより対応科目数の多い科目についてもGPAを向上させる上で有効に科目が配置されていると考えられる。このため「3」と評価できる。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している
【評価理由】 GPAについては2.0、単位修得者数の割合については80%を基準として検討を行った。その結果ディプロマポリシーの「C 理論的な思考にもとづき実証的な調査を行うことができる」のGPAの平均値が他に比べれば低い、「A 社会学の基礎知識を説明できる」の履修者数に占める単位取得者数の割合が他に比べるとやや低い（ただし現状7割を切っているわけではない）、Cの対応科目数が他に比べ少なく（5科目未満の割合が多い）、「B 社会の問題を発見し、社会を構想することができる」の「6さまざまなメディアの特性を学ぶことで、メディアリテラシーを持って情報を分析できる」が「0」の者がいることが明らかになった。データの収集・分析を行い教務委員会議にて検討を行っていることから「3」と評価する。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる
【評価理由】 学科教員間で積極的に情報交換を行い、就職率向上に努めており、就職率も前年度より向上しているため、「3」と評価した。
【特筆すべき取り組み】 就職率のさらなる向上に向け、学科教員間での就職指導ノウハウの情報共有を促進する。具体的には「エントリーシート指導法の勉強会」（2022年9月実施）、「グループウェアの導入による教員間コミュニケーションの活性化」(2022年10月より実施)などの取り組みを行っている。 勉強会では教員に向けて学科の教員が作成した資料にもとづき、近年のESで重視されていること、業界研究や企業研究の重要さ、いわゆる学チカ（力を入れてきたこと）についての考え方などを解説してもらい、学生を演習などで指導してもらう際の参考にしてもらう取り組みをおこなった。グループウェアの利用では、slackを用いて学科教員が行った就職に関する取り組みについての情報共有を行っている。本学で行われたNHK番組の収録の際に学科学生にもバックヤードに参加してもらう試みなどが紹介された。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【評価理由】
学科教員全体に、学科平均値が低い項目等について共有できており、改善を促しているため、「2」と評価した。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【評価理由】
シラバスのうち20科目を無作為系統抽出して、紐づく修得目標がシラバスに落とし込まれているかについて確認を行った。この結果、「すべての修得目標に言及」が3件（15%）、「一部の修得目標に言及」が16件（80%）、「言及なし」が1件（5%）であった。
ＦＤ等で学科の教員に周知し、実際に整合性がとれているかを確認するための整備を進めているため、「2」と評価されると考えられる。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】
「シラバスデータで同一科目のシラバスが同一シラバスとなっているか」については「ライフデザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、「英語Ⅰ～Ⅳ」、「社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「社会学史Ⅰ・Ⅱ（授業の概要や授業内容の部分）」は同一であった。他の科目については同一ではなかった。
「同一の修得目標に紐づいている科目において、修得目標を達成するために学生に身に付けさせるべき内容に不足はないか」については、各修得目標に対応する必修科目が配置してあり不足はないと考えられる。
「同一の修得目標に紐づいている科目において必要以上に授業内容が重複している科目がないか」について、紐づけられた専門科目が多いのは19(自らの問題を社会と関係づけて具体的に考察して表現できる)であり50科目である。これらについては、科目名等をみても、授業内容が重複する可能性は少ないようにみえる。
「８。担当教員間の調整」は、評定尺度の「2」とし、教員間の連携の方法など、さらに具体的な取り組みを行って行くべきであることが確認された。

評価対象

文学部 心理学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
学科修得目標「実社会におけるこころの問題を解決するために、様々な分野・立場の人と協働することができる」は、在学期間中に達成度を評価することは困難であるため、「実社会におけるこころの問題を解決するための多領域連携の重要性を説明できる」へと表現を修正した。また、大学の修得目標の削減に合わせて、３つの学科修得目標を削除した。現在のところガイドラインに従って学科内で文言の合意がとれており、課題は特にないと考えられる。しかしながら、今後運用していく段階で再度文言を見直していく必要が生じる可能性がある。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
科目数の配置について検証したところ、他の修得目標については10科目以上が配置されている一方、修得目標7, 8, 9, 10, 17, 24の配置数が少ない傾向にあった。また、3,4年生の科目では、これらの目標の科目がほとんど配置されていなかった。
また、修得目標「グローバルな視点から、広く人類に共通する課題を指摘できる」については、専門科目の科目数が4科目と少なく、履修者数及び単位取得者数も少ないため、新たに３科目を該当させた。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
修得目標に紐づけられた科目数に変動が見られたため、科目の該当を再検討した。結果として、総合基礎科目を配置する「人文科学・社会科学・自然科学の知識を修得し、その法則や理論を理解できる」を除き、各修得目標に3～23の学科専門科目を紐づけ、平均は12科目とした。
各修得目標のGPAの平均は、2.1から2.6の間にあり、目標による偏りはないと思われる。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
GPAからみた修得目標の達成については、紐づく科目のGPAの平均が低い修得目標が、特定のディプロマポリシーに偏る傾向が見られた。また、そのような修得目標の中に、紐づく科目数が少ないことも影響していると考えられるものもあり、紐づけの再検討を行った（資料：4-1.）。
到達目標達成に関する学生自身の自己評価については、心理学科全体では到達目標を達成したと評価する学生が67.1%（春期、秋期平均）であった（資料：3-1.)。
企業が採用に当たって重視する能力で科目を通して獲得が期待できるものは「対人関係能力」、「コミュニケーション能力」、「協調性・チームで仕事をする能力」、「主体性・リーダーシップ」があげられたが、これらの能力に関連する修得目標に紐づく科目の平均GPAや単位取得の状況は、比較的十分であると考えられた（資料：3-4.）。

【特筆すべき取り組み】
2022年度前期、2～4年生を対象に、心理学科のディプロマポリシーをマトリックスにして、その達成の度合いを自己評価するよう、学生に求めた（資料：4-2.）。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【評価理由】
就職率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っている。一方で、以前よりも向上が見られるかどうかという根拠には乏しいために「2」と回答する。
心理学科の学生の就職率は、ここ数年は低い水準にある（資料：5-1.）。元々、心理学科では大学院などへの進学率が高い傾向があるが、ここ数年は就職活動に苦戦している学生が増えつつある。これらの問題に対処するために今年度は、就職・キャリア支援委員のメンバーを昨年の2名から4名に増員し、キャリアサポートセンターとの連携・協力について取り組んでいる（資料：5-3.）。現在は、学生の就職・キャリア支援、ひいては学生の就職率向上のために、心理学科としてどのようなことができるかについて、学科内の教員から広く意見を収集し、今後の支援に活かしていくことを計画を立てて、実行している（資料：5-2.）。現時点では、回答期間を延長し、広く学科の教員からの意見を募っている。

【特筆すべき取り組み】
2022年6月28日、全2年生を対象に5限の必修授業「心理学基礎実験実習」の時間をあて、学科主催の進路ガイダンスを行った（資料：5-3）。教員、卒業生による説明のほか、同時間内に、キャリアサポートセンターによるプレゼンテーションも行っていただいた。ガイダンス実施後には、学生全員に課題提出を求め、キャリア形成に関する意識を高めた（資料：5-4.）。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【評価理由】
「どちらとも言えない」の評価を超える回答の割合が、到達目標に関する回答を除き、全ての質問項目で80%を超えている。あるいは、ほぼ80%であった。したがって、全体として回答者が授業に積極的に取り組んでいたことがわかる。また、過去のアンケート結果と比べても、この結果に大きな推移はない。
しかし、心理学科の授業評価は、全体と比べると全般的に高くない。学生による評価結果が、教員による成績評価とどのように対応しているのかが、この学生アンケートからはわからない。また、授業内容も多岐にわたる。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【評価理由】
心理学科における学修ポートフォリオの対象である30科目のうち、該当する習得目標をすべてシラバスに記載している科目は17科目である。また、該当する修得目標のいずれか一つでも記載している科目は29科目である。今年度は、シラバスの入稿が始まった後に学修ポートフォリオとの対応について検討を行ったため、シラバスに対応させることが難しかった科目がある。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】
同じ名称の科目は23科目あり、そのうち、10科目はシラバスがすでに統一されており、1科目は来年度に統一する予定である。

外国語学部 外国語学科（英語）

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
学生の英語力向上のために、Extensive Readingを来年度（2023年）から導入する学修環境整備とシラバス作成が現在遂行されている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
英語コースでは、学生の総合的読解力を強化するために、1年次必修科目のReading/Writingに多読(extensive reading)を導入する準備をしている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
企業インタビュー集計データ(文系)の「4.学修成果の評価の適切性について」、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が重視されている傾向があるため、引き続き学生の能力向上に努める（資料①⑥参照）。
関係資料を基に、引き続き学生の修得目標の達成度合における見直しに取り組む。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
引き続きコロナ禍における就職状況を鑑みて、学科で学生の卒業後のサポートをし続ける。従来通り、専任会議などにおいて、教員間での情報共有をし、ライフデザイン演習などの授業にて就職支援になるような情報提供を努める（資料②参照）。
キャリアサポートセンターの「出張ガイダンス」などの活用や、学生の就職活動に有用なサービス（例、全員面談、PROG）の周知を引き続き続ける。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【特筆すべき取り組み】
専任会議などにて、適宜に授業評価アンケートや該当する資料を基に、学生の学修状況を共有しつづけるようにする。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	
【特筆すべき取り組み】 必修英語覚書、必修英語共通シラバスの年度ごとの修正、配布	

外国語学部 外国語学科（ドイツ、フランス、スペイン、中国、コリア語）

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
・教務委員会で修得目標の適切性について常時検討を行い、学科専任教員会議及び全体メールでも議論した。
・「2021年度帝京大学外国語学部卒業生 (多言語コース)DP自己評価アンケート」の実施。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
教務委員会の議論の内容を学科専任教員会議に随時フィードバックしている。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
教務委員会の議論の内容を学科専任教員会議に随時フィードバックしている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
各言語コースがそれぞれ独自に語学検定試験の目標レベルを設定し、その目標レベルの受験率と合格率を毎年「外国語学科自己点検・自己評価活動報告書」で報告している。
・2022年度は検定試験の合格率アップのために、各言語コースに検定試験対策のための戦略を４つ以上設定してもらい、実行できた戦略数を測定してもらうことにしている。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
・１年次のライフデザイン演習と３年次のセミナーにおいてキャリアガイダンスを実施することを強く推奨している。
・学生の就職に対する教員の意識を高めるために、教員向けの「就職・キャリア支援セミナー」に積極的に参加するように呼びかけている

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【特筆すべき取り組み】
外国語学科はコース制であるため、すべての科目はコース単位で綿密に管理されており、コース内の教員間で随時検討、改善の取り組みがなされている。シラバスを含めて授業に関わる事柄は即時にコース間の教員で共有され、各コース選出の教務委員を通じて教務委員会や学科会議において報告、審議される体制ができている。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
外国語学科の教員はいずれかのコースに帰属しているため、同一科目や同一修得目標に紐付く科目の内容調整や統一については、コース毎に随時話し合われており齟齬はない。したがって、コースにおける取り組みを総括する組織的な体制作りの下地はすでにできている。

外国語学部 国際日本学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認している	

②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている	
【特筆すべき取り組み】 総合的な学習成果、教育成果の評価のため、学科独自に”Can-doアンケート”の実施を2022年入学生対象に開始した。このアンケートを通じて、言語能力（DP1）と異文化理解能力（DP2）の向上を測定する。 https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdRllauFFelh8Mk2FIVQG51_LHYUjP2FSaKJwnscNOaJDAZig/viewform	

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している	

③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	

②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	

教育学部 教育文化学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	
【特筆すべき取り組み】 ディプロマポリシーに紐づけた学修目標の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD活動で共有・議論している。	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認している	
【特筆すべき取り組み】 学生の主観的な達成状況については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。	

②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している	
【特筆すべき取り組み】 学生の主観的な達成状況については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている	
【特筆すべき取り組み】 企業が重視する3項目と対応するものとして、「コミュニケーション能力」「人の前でわかりやすく説明する力」「異なる意見を持つ他者と合意形成し協働する力」「自分で主体的に学ぶ力」といった学修成果について、学生の主観的な達成状況を教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって把握している。学部FDでの調査結果の共有や、自己点検・自己評価報告書での取りまとめを行っている。	

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している	
【特筆すべき取り組み】 2022年度前期に必修の教育学演習・卒業研究の授業内でキャリアサポートセンターのガイダンスを実施した。	

③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している	
【特筆すべき取り組み】 教育学入門、ライフデザイン演習、教育研究リテラシーについては、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査において簡潔な評価を求め、学科内で結果の共有を行っている。	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	
【特筆すべき取り組み】 カリキュラムマップの習得目標については、教育学部会議を通じて、所属する全教員に対し、自身の担当授業の習得目標策定に積極的に記入・確認するよう促し、完成版に各自の意向を反映させた。	

②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	
【特筆すべき取り組み】 カリキュラムマップの習得目標策定時において、同一科目担当者間で目標選択を統一するよう依頼し、その結果を完成版に反映させた。	

教育学部 初等教育学科 初等教育コース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

【特筆すべき取り組み】
ディプロマポリシーと結びついた学修目標の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
授業の中で、各授業科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかけている。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
教職関係の就職希望者については、教職センター、子ども教育総合センターと連携し、就職先獲得の支援を行っている。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムマップの習得目標については、教育学部会議を通じて、所属する全教員に対し、自身の担当授業の習得目標策定に積極的に記入・確認するよう促し、完成版に各自の意向を反映させた。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムマップの習得目標策定時において、同一科目担当者間で目標選択を統一するよう依頼し、その結果を完成版に反映させた。

教育学部 初等教育学科 こども教育コース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	
【特筆すべき取り組み】 カリキュラムマップの習得目標については、教育学部会議を通じて、所属する全教員に対し、自身の担当授業の習得目標策定に積極的に記入・確認するよう促し、完成版に各自の意向を反映させた。	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	
【特筆すべき取り組み】 カリキュラムマップの習得目標策定時において、同一科目担当者間で目標選択を統一するよう依頼し、その結果を完成版に反映させた。	

医療技術学部 スポーツ医療学科 健康スポーツコース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている	
【特筆すべき取り組み】 次年度のシラバス作成の説明とシラバスチェックを教務委員会を中心に実施している。	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	

医療技術学部 スポーツ医療学科 トップアスリートコース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

経済学部 地域経済学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
構成・表現の妥当性や目標レベルの確認については、学科会議において意見交換を行い確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
修得目標の体系性については、学科会議において意見交換を行い確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
修得目標の有効性については、学科会議において意見交換を行い確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
就職率は学科会議で共有し、課題があれば意見交換を行うようにしている。さらに、①演習科目の担当教員が就職活動の開始時期以降に，3年生全員を対象とした個別面談を行い指導している．②4年生による就職アドバイス会を実施する（一部の演習で実施）、③SPIのアドバイスをする（一部教員が実施）、④学生の希望があれば就職活動中に面接対策や相談に応じる（面接は実務系教員が実施）、など細やかな対応を随時行っている。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	
【特筆すべき取り組み】 教員間の調整については、学科会議において確認し、必要に応じて変更・修正を加えるようにしている。	

理工学部 機械・精密システム工学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
大学の就職支援情報の周知のため．コース必修科目（機械/自動車工学実験）のLMS上で掲示を行っている．

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

理工学部 航空宇宙工学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	

理工学部 情報電子工学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科会議及び学科でのメール審議等を行い、広く意見を集め、改善に努めている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
学生FD活動を通し、学生から対面での意見や感想を収集している。アンケートのデータ分析と併せて、修得目標の見直しや教育課程の改善へ対応に努めていく。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
2年次から履歴書作成に取り組み、学生の就職活動及び学業等への意識の改善に繋げている。また、資格取得及び認定科目の説明、資格取得の案内等を積極的に行い、就職意識への向上に努めている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

【特筆すべき取り組み】
学科でのFDセミナーを開催している。フォームに文書記載し、意見を集約、改善へ努めている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

評価対象

理工学部 バイオサイエンス学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
カリキュラムマップと講義関連付けやレベル１、レベル２の関連付けをおこない、修正・見直しをおこなった。修得目標や履修者に関するデータ、学科で取得した入学時アンケートより学生が在学中に身に付けたい能力を考慮に入れ、カリキュラムの改編に着手した。さらに、オープンキャンパスやサイエンスキャンプアンケートなども活用し、学生や保護者が大学に求める能力を学科独自にアンケートより収集し、カリキュラム改編や編成資料に取り組んだ。

【特筆すべき取り組み】
オープンキャンパスやサイエンスキャンプアンケートなども活用し、学生や保護者が大学に求める能力を学科独自にアンケートより収集し、カリキュラム改編や編成資料に取り組んだ。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
カリキュラムマップ（2022年9月に提出、2022年10月末に修正版を再提出）を用いて、修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証した。極端に科目の数が少ない修得目標はなかったものの、「H.獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる（統合的な学習経験と創造的思考力）」に対応する科目が12科目と少なかったため、対応する科目として、以下の科目を新設することになった。まず、早期に研究室での教育を行い、統合的な学習と課題解決を経験することで、創造的な思考力を養成する「ラボインターンシップ（１年）」、「バイオサイエンスゼミナール（３年生）」を2023年度以降に順次開講する。また、バイオサイエンス学科の学生向けに特化したキャリア教育を行う科目として「バイオキャリアデザイン（３年）」を新規に開講する。この科目では、自身の資質・能力を把握し、活用することを教育する。

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムマップについて学科の全教員が内容を把握し、学科会議において検証を行った（エビデンス資料：第３回および第４回教学マネジメント-カリキュラム改善検討会議事録）。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
カリキュラムデータより卒業研究を主として、課題発見能力や論理的な思考を専門選択で取得できるようなカリキュラム構成になっている。特に、高学年でそれらの科目は学生の80%以上が取得している結果から直接的に学んだ専門知識を仕事で使わない職であってもそれらの能力をしっかり社会で発揮できていることが卒業後アンケートから確認できた。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
「修得目標ごとのカリキュラムデータ」で単位修得者数、GPAの平均値を確認した。「H.獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる（統合的な学習経験と創造的思考力）」に対応する科目の履修者が少ない傾向が見られた。GPAについてはどの修得目標も２以上であった。授業評価アンケートについては、2021年度前期と後期ともに「授業の教え方」、「総合評価」の学科平均値がほぼ全ての項目で４以上であった。しかし、講義科目において、「学生の課題にかけた時間」の標準偏差が大きく科目ごとに学生の自主学習の時間にばらつきがあったため、学生の修得目標の達成度合いに影響を与えている可能性が考えられた。また、2021年度の後期科目においては、「資料や動画の公開」、「課題のフィードバック」の項目も標準偏差が大きく、学生の修得目標の達成度合いへの影響が懸念された。企業に対するアンケートは回答数が少ないものの、学生が求められる資質・能力を身に付けられているという回答が多かった。

【特筆すべき取り組み】
「H.獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる（統合的な学習経験と創造的思考力）」に対応する科目については、項目２で述べたように新規に開講する。さらに、各科目における学生の評価、講義に対する姿勢を把握するために、学科独自の評価アンケートや学生の代表者と意見交換を行う「学生FD」を行っている。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【評価理由】
基礎データより就職率は過去3年間平均81%、進学率13%、進路決定先80%となっており、理工学部内、他学部と比較しても高い数値を示している。卒業率も85%と高いことから卒業後の進路や企業からの求められる能力をカリキュラム内で培っていることが示唆される。学科独自で就職率を上げるために就職委員の教員が就職セミナーを開催していることも数値が高い結果が出ている要因の一つであると考えられる。進学率も他学部、他学科と比較して高い数値を示していることから学科の特色である高い研究力が学生の進学意識に影響を与えていることが考えられる。

【特筆すべき取り組み】
早期のキャリア教育は就職率の向上に重要である。このため、１年生の授業、３年生の授業で企業のゲストスピーカーやOBを招いて就職や進学、研究職のステップや試験勉強なども含めたキャリア教育を開始した。さらに2024年度よりバイオキャリアデザインを開講することにした。https://www.teikyo-u.ac.jp/topics/2022/0906, https://www.teikyo-u.ac.jp/topics/2022/1012-1

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【評価理由】
授業改善アンケートは各教員が確認をし、PDCAを回している。また、FD委員会による在学生アンケートや卒業時アンケート、学科で独自に行っている入学時アンケートを元に学科内で情報を共有している。学科内で学生FDを組織して、毎年学生からの意見を回収し、情報を全教員が共有できるようにしている。授業改善アンケートにおいて、講義科目の総合評価は4.39であり、学生の授業目標の理解度やシラバスの準拠、教員の熱意は高い値を示した。また、オンラインの利用がここ数年で進んだため、資料動画の公開や質問に対す指示などは非常に高い数値を維持している。実験科目に関しては学生の課題にかけた時間が数値が高く、学生の熱心さも高く出ている。毎年行われるFD委員会の卒業生アンケートから学生の満足度において卒業研究の満足度が毎年非常に高い。実験の操作のみならず、協調性やプレゼンテーション能力が上がったと学生が感じているのは卒業時アンケートでも示されているので、今後も引き続き丁寧な指導をおこなう。卒業時アンケートや在学生アンケートの比較から自主的な学習時間が学年が上がるごとに高くなっているので振り返りや事前学習、アクティブラーニングなどで専門教育のカリキュラムが自主的な学習効果があると考えられる。

【特筆すべき取り組み】
学生のキャリアや進学にも繋がる科目や入学時の不安を解消できるようにキャリア教育や初年次教育向けてカリキュラムを改編する予定である。

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

【評価理由】
ほとんどの授業では各教員レベルで修得目標を意識したシラバス執筆ができていると思われるが、現状ではそれを学科でチェックできる体制にはなっていない。成績の評価については、基準が曖昧な部分があり各教員任せになっているので早急に統一的なルーブリックを作成する必要があると考えている。

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

【評価理由】
バイオサイエンス学科では、同一科目名の科目を複数人の教員で担当している授業はそれほど多くない。これまでは該当する科目（例えば化学1など）では教員間で内容のすりあわせを行ってきたが、今後は授業アンケートなどを参考にして、学生のニーズやレベルを把握しつつ講義内容の検討を教員間で確認してシラバスを執筆する体制を整えたい。また、同一科目の評価に関してはDPや修得目標における最低の基準を策定し、ルーブリックを作成することで評価の可視化をおこなうこととなった。同一修得目標に紐付く科目の内容調整は非常に難しい課題だが、まずは、各科目においてどの部分が修得目標レベル2に対応するかの洗い出しを行っていきたい。また、学科内の同一科目における評価基準の策定において曖昧な点がある。例：卒業研究（14研究室）やバイオ実験（5コース中3コース以上選択）などは同一科目名だがそれぞれの研究分野、実習の内容が違うため評価の基準が各研究室や教員によるところが大きい。

【特筆すべき取り組み】
卒業研究において同一のシラバスを作成し、内容を調整した。

理工学部 情報科学科通信教育課程

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認している	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	

医療技術学部 柔道整復学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
科目ナンバリングを生かした修得目標との関連性を判りやすく整理されたカリキュラムマップの構築に向け、適合した科目ナンバリングの徹底化を教務委員で実施中。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している

【特筆すべき取り組み】
科目担当者が変更となった科目のシラバスのチェック

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている

【特筆すべき取り組み】
学科で共通した国家試験過去問題のベース構築を大学からの「国家試験対策予算」を利用して実施中。現在、学生（柔整科）アルバイトを使用して実施中。

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
・就職面接指導、医療系履歴書作成指導
・夏期講習、国試直前補講

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【特筆すべき取り組み】
具体的な取り組みは出来ていない。最も有効な取り組みを模索中である。
例）学科内ベストティーチャー賞の設定など

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている	
【特筆すべき取り組み】 教務委員によるキーワードによるシラバスチェック	

②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている	
【特筆すべき取り組み】 引継ぎ教員の許可のもとシラバスの応用	

福岡医療技術学部 理学療法学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
過去の業者模試および国家試験の問題をデータベース化し、正答率を分析している。このデータベースをもとに試験問題を作成し、適宜頻回に国家試験対策として実施している。特に週に１回の頻度で分野ごとに出題範囲を定めたプレ・ポストテストを行っている。これらの試験や業者模試の結果をもとに特別支援学生を抽出し、成績の経過や指導経過を記載した個人カルテを作成している。国家試験の学習はゼミを中心としたグループ学習を行い、国家試験２週間前からは国家試験の過去10年分についてペア学習を実施している。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
アセスメントポリシーのなかで、教育課程レベルにあげている基礎理学療法学演習Ⅰから Ⅲについては、授業評価アンケートの到達目標の達成度に関する設問の平均を算出し、分析・活用している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
同一修得目標に紐づいている基礎理学療法学演習Ⅰ～Ⅲ、理学療法学総合演習については、内容を学科会議にて確認し、調整を図っている。同一科目を複数の教員で担当する科目である理学療法学入門セミナー、チーム医療、臨床技能演習、臨床実習Ⅰ～Ⅲなどは、内容を学科会議にて確認し、調整を図っている。

福岡医療技術学部 作業療法学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
現在、「カリキュラム改善に係る行動計画」のNo.1の課題にて「低学年の基礎学力の向上」を目的とした取り組みを行っている。内容としては本年度導入した「成績優秀者と成績不良者のペア学習」がある程度の効果を得ており、継続して実施している。
低学年の学力向上を達成する事で、国家試験合格率の向上だけでなく臨床実習における技能及び知識修得のための基盤を形成することができ、卒業時には基礎的なスキルだけではなくある程度の応用力も兼備した即戦力型の学生を送りだすことを目標として取り組んでいる。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 看護学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている
② 修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。
【特筆すべき取り組み】 2022年度からの新カリキュラムで総合看護演習やフィジカルアセスメントⅠ・Ⅱの科目を領域横断的な科目として全教員で取り組む。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している
【特筆すべき取り組み】 学修ポートフォリオの学生の目標や自己評価に関して、担任とアドバイザーが連携し、アドバイザーが個別指導する。
② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている
【特筆すべき取り組み】 国家試験対策小委員会を中心に、模試の結果を分析し、各学生に応じた個別指導をアドバイザーが行う。
③ 授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている
【特筆すべき取り組み】 学科教務委員会のメンバーで、シラバスのチェックをしている。
② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 診療放射線学科

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科としての課題を把握している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集をしている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
・ペア学修
成績が下位の学生と上位の学生がペアになって、国試対策の勉強を行う。下位の学生の成績が向上するとともに、上位の学生も教えることでより理解を深めることができる。
・板橋キャンパスとの合同模試（同じ問題）
11月に実施しており、本学科の学生の位置づけや特徴が分析できる。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

福岡医療技術学部 医療技術学科 救急救命士コース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認
一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている	

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認
カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している	
②	修得目標に対する有効性の確認
カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている	

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握
修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている	
②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率（または国家試験合格率）を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している	
【特筆すべき取り組み】 各学年での定期試験や到達度確認試験において、国家試験形式及び内容を取り入れて実施している。そのことで、国家試験に対する意識付けを早期から持たせる。併せて、進路についても早期に自覚させることを促す。また、4年生前期の到達度確認試験及び国家試験模擬試験においての成績を就職活動の目安として条件を作成している。	
③	授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している	
【特筆すべき取り組み】 年度末合同検討会の実施	

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施
修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている	
②	担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている	

福岡医療技術学部 医療技術学科 臨床工学コース

2022年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

①	構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている□

【特筆すべき取り組み】
2021年度に掲げた修得目標20項目を精査し、文言の表現をわかりやすく修正し、重複する内容の項目を統合して16項目にした。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

①	修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
科目名・修得目標・配当期全体を見直したカリキュラム・マップが完成した。

②	修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

①	学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

②	就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
1年次では専門科目の履修がなく、専門的知識がない中で、試験の傾向を感じさせる目的で、資格試験（ME2種検定試験）の過去問、国家試験の過去問や模擬試験を教材として使用し、徹底した指導を行っている。
2年次からは本格的な資格試験対策、国家試験対策を行っている。
低成績者（下位5%）の集中指導、個人指導を行っている。
その結果、資格試験（ME2種検定試験）の合格年次は3年次を目標にしているが、2年次での合格者数が増加しており、ひいては1年次での合格者も出現している。
また、就職活動については4年次の早い時期から行っており、特に面接の練習に力を注いでいる。

③	授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

①	組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

②	担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている